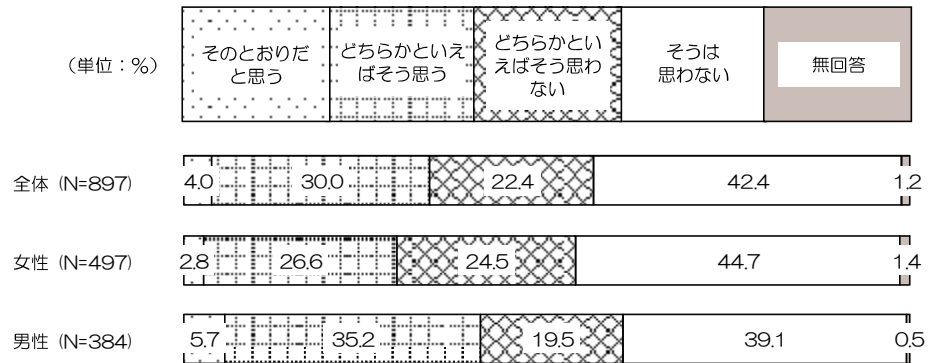


2 男女の役割分担について

(1) 性別役割分担意識

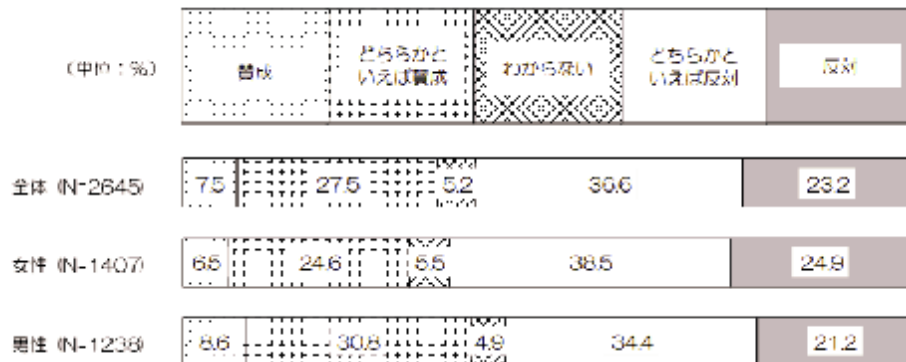
問3. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(〇はひとつ)

〔図表 2-1 性別役割分担意識 (性別)〕



<内閣府 (令和元年度) 調査結果>

〔図表 2-1-1 性別役割分担意識 (内閣府調査比較)〕



【「男は仕事、女は家庭」という考え方に、女性の29.4%、男性の40.9%が『同感する』】

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『同感する』(「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)は34.0%、『同感しない』(「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた割合)は64.8%となっている。性別で見ると、『同感する』は、女性29.4%、男性40.9%で、女性の方が11.5ポイント低くなっている。(図表 2-1)

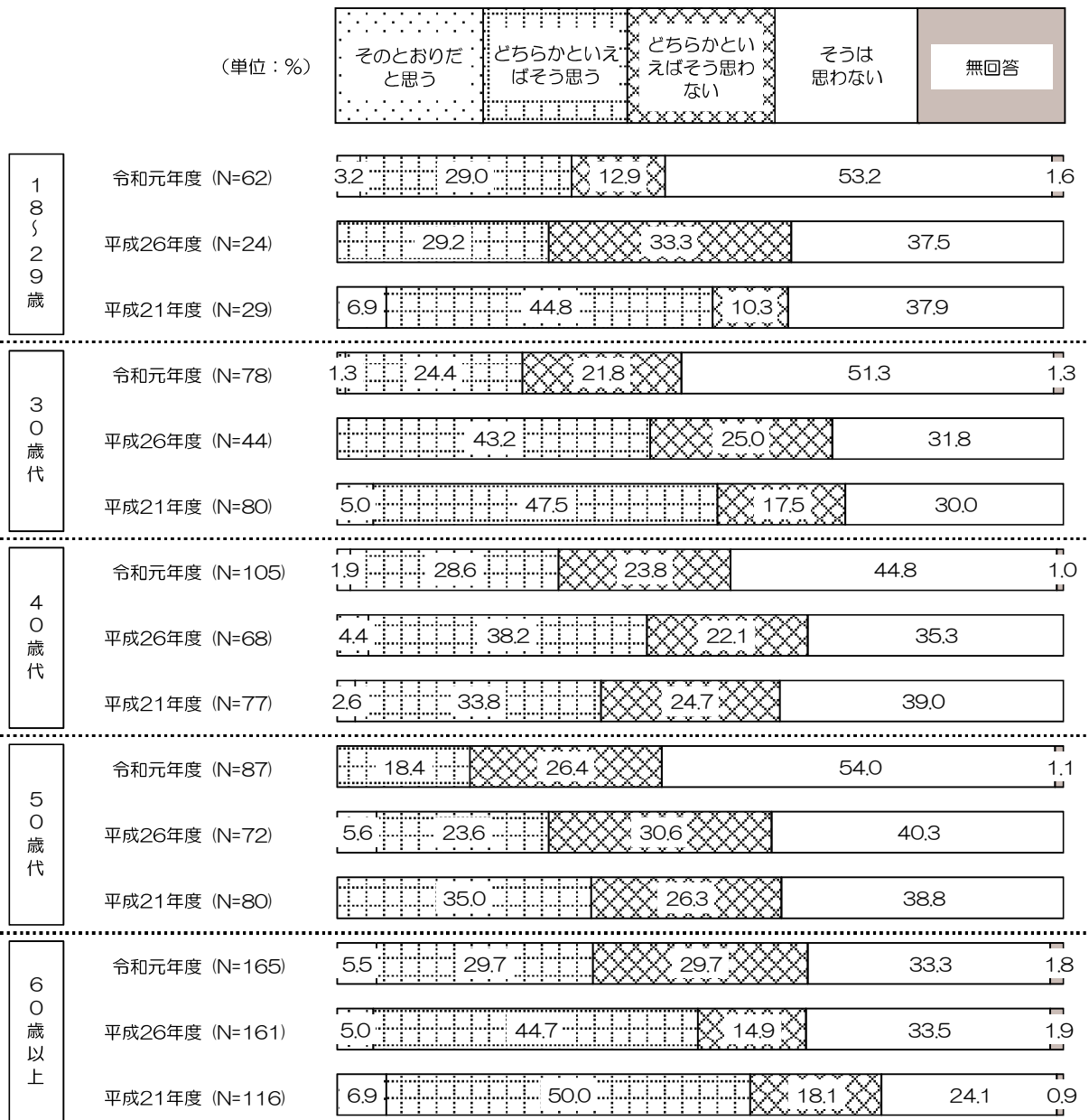
【内閣府調査との比較】

平成28年度の内閣府調査では、『賛成』が40.5%、『反対』が54.3%となっていたが、令和元年度調査では、『賛成』が35.0%、『反対』が59.8%であった。前回調査と比べ、賛成は5.5ポイント減、反対は5.5ポイント増となっている。

今回の大阪府調査の『同感する』と内閣府の令和元年度調査の『賛成』を比べると、内閣府の方が1.0ポイント高く、『同感しない』と内閣府調査の『反対』を比べると、内閣府の方が5.0ポイント低くなっている。

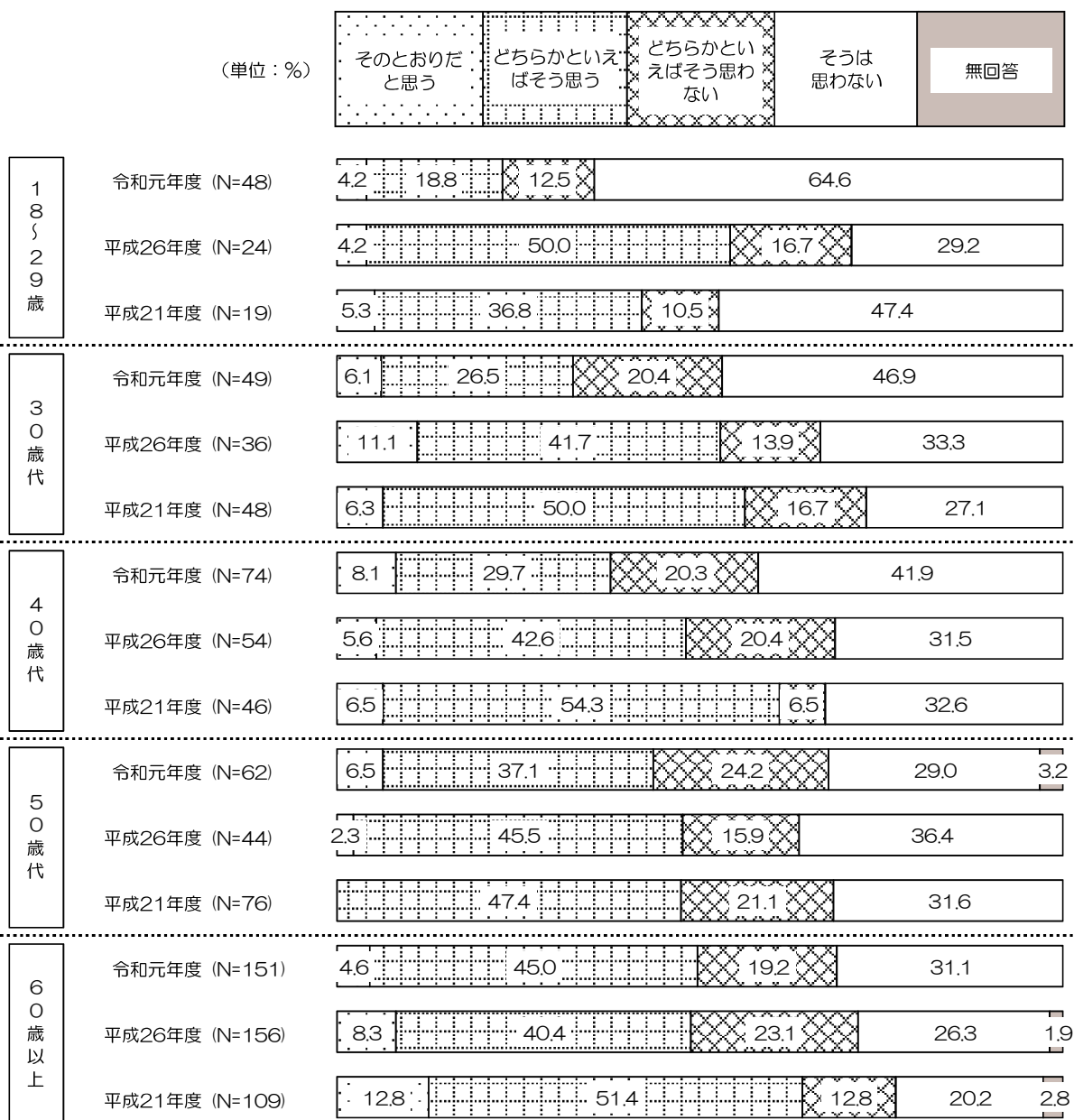
〔図表 2-1-2 性別役割分担意識（過去の調査との比較）〕

<女性>



※平成 26、21 年度は満 20 歳以上を調査対象に設定
令和元年度より調査対象に 18、19 歳を追加

<男性>

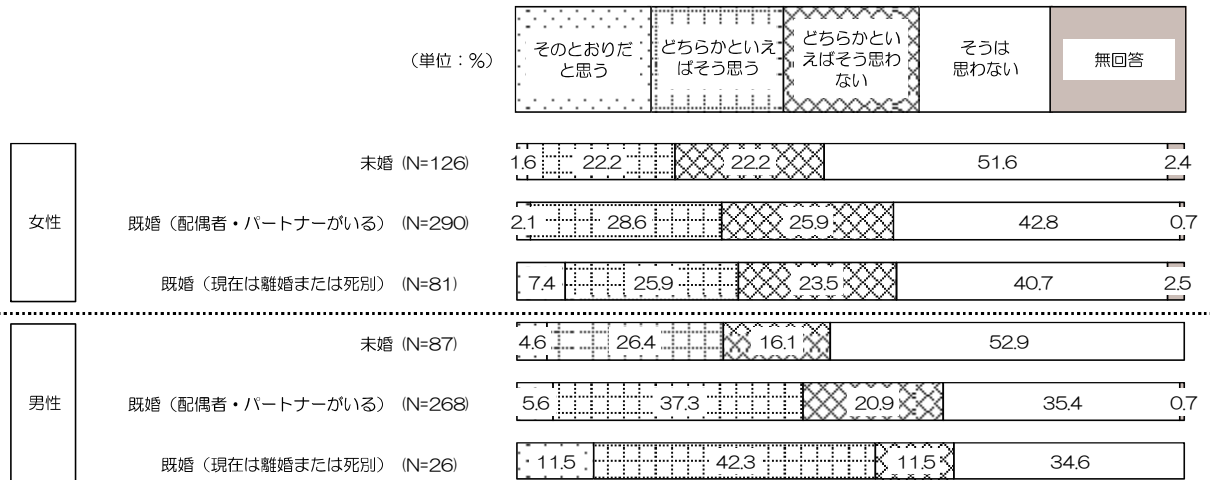


※平成 26、21 年度は満 20 歳以上を調査対象に設定
令和元年度より調査対象に 18、19 歳を追加

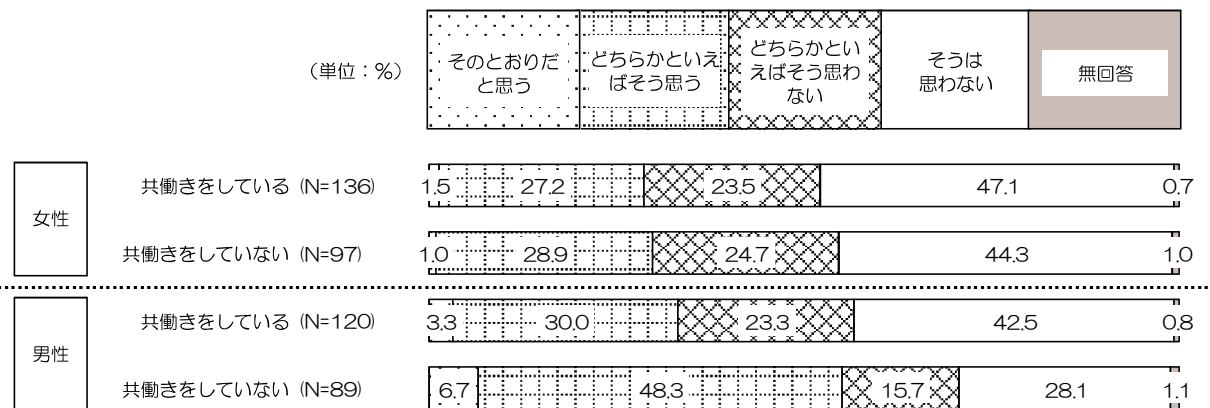
【過去の調査との比較】

平成 26 年度及び平成 21 年度調査と比較をすると、概ね全ての年代で男女共に『同感する』割合が減少傾向にある。また、18～29 歳男性では『同感する』割合が平成 26 年度にかけて増加したが、今回大きく減少している。(図表 2-1-2)

〔図表 2-1-3 性別役割分担意識（性・配偶関係別）〕



〔図表 2-1-4 性別役割分担意識（性・共働状況別）〕

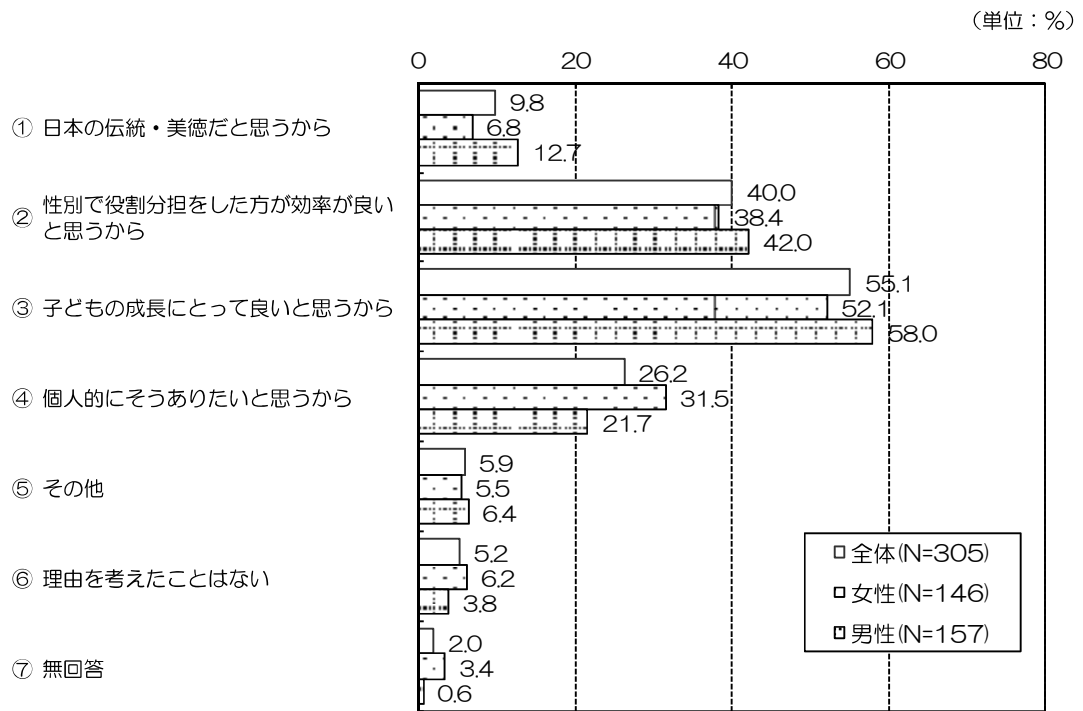


(2) 「男は仕事、女は家庭」と思う理由

問3-1. 【「男は仕事、女は家庭」と思う方】 そう思う理由を教えてください。

(〇はいくつでも)

〔図表 2-2 「男は仕事、女は家庭」と思う理由 (性別)〕



【「男は仕事、女は家庭」と思う理由は「子どもの成長にとって良いと思うから」が55.1%】

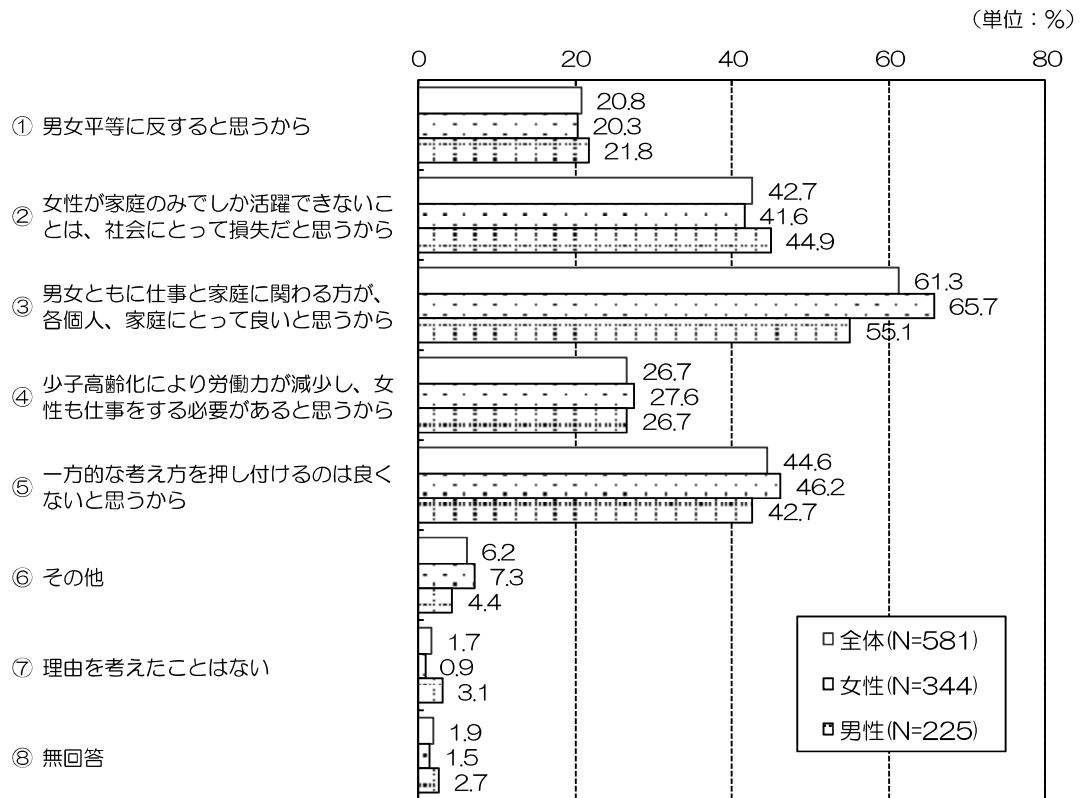
「男は仕事、女は家庭」と思う理由は、「子どもの成長にとって良いと思うから」が55.1%で最も高くなっている。次いで、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が40.0%、「個人的にそうありたいと思うから」が26.2%となっている。性別で見ると、「個人的にそうありたいと思うから」は女性の方が9.8ポイント高くなっている。(図表 2-2)

(3) 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由

問3-2. 【「男は仕事、女は家庭」と思わない方】 そう思わない理由を教えてください。

(〇はいくつでも)

〔図表 2-3 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由 (性別)〕



【「男は仕事、女は家庭」と思わない理由は

「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が61.3%】

「男は仕事、女は家庭」と思わない理由は、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が61.3%で最も高い。次いで、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が44.6%、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が42.7%となっている。(図表 2-3)